

TOMITA SUPPORTERS ASSOCIATION / NEWS LETTER

REALIZE



富田後援会 REALIZE

ニュースレター



VOL.35 / 2022

冬号

「会員の皆様へ」 2022年を振り返って…



今年を振り返りますと、夏に後援会主催の「親睦会」、秋に町内8ヶ所での「町長とのふれあいの集い」を開催いただき、3年ぶりに多くの方々とお会い出来ました事に、五味会長はじめ、各地区長さん、役員の皆さん、実行委員さんに感謝申し上げます。勿論、ご参加いただきました会員各位にも心より感謝申し上げます。

親睦会の寄席では、皆さんの笑顔に触れながら、私も一緒に思いっきり笑い、とても楽しい時間を久しぶりに味わう事が出来ました。

ふれあいの集いでは、直接お話しをさせていただき、皆さんからのご意見や励ましの言葉をいただき、改めて、皆さんにお支えいただいていることを肌で感じ、ほっとした思いを本音として、お伝えさせていただきました。

思い起こすと、コロナ禍が3年を超えるなど、誰もが想像していなかったかと思えます。

その現実と向かい合いつつ今を迎え、感染対策に取り組みながら、3年ぶりに後援会活動が再会されたことに、心より感謝申し上げます。

さて、12月議会において、議員さんからの質問に答える形で、来春4月18日告示にて行われる見込みの湯河原町長選挙に、挑戦をさせていただきますことを表明いたしましたので、ここに報告申し上げます。

出馬を決めた経緯については、今年の夏頃から、次の出馬は？と尋ねられことが多くなり、どなたに対しても即答は避けながら、自分自身がどうあるべきか？自問自答しながら、もう少し頑張ってみたい、という気持ち少しずつ強くなっていくことに、気付きはじめました。

そして、秋のふれあいの集いで多くの方々とお会いする中で、その気持ちは更に強くなり、決心するに至りました。

次の挑戦が五期目の挑戦となることから、「長すぎるのでは無いか」、こんなお声も聞こえてきますし、報道関係者からも質問を受けました。

確かに、そう言われても仕方ないかと思いつつも、それぞれの1期4年を、出来る限り愚直に取り組み、行政関係者とも協議を進めながら、町のこと、町民の方々の思いを少しでも実現すべく、努力を重ねて来たという自負もあります。一方、全ての方々の思いを叶えられない現実も、認識しております。

しかし一点だけ、ご理解いただきたいことをお伝えしますと、何事にも判断をすることが、自分の使命だと言いつつも参りました。勿論、悩むこともありましたが、そんな時は、後援会の方々ははじめ、私を支えて下さる方々に相談をしたり、時には胸の内を明かしたり、愚痴も聞いていただきました。

この四年間を振り返ると、なんとと言っても、コロナ対策と昨年の大雨による災害への対応が思い出されます。その際も、行政関係者と対応策を考えながら、最終的な判断と責任は私にある、と腹をくくり、取り組んで参りました。

次の出馬への取り組みなどは、いずれお伝えさせていただきますが、現時点にて、これだけは、という強い思いがあります。

それは、コロナ禍にて、人と人との繋がりが途切れてしまった現状を非常に憂いており、少しでも良いので、その繋がりを取り戻すことこそが、私に課された役目では無いか、という思いです。

今回の会報を通して、新しい年に向かうに当たり、今の私の思いを伝えさせていただきます、本年最後のご挨拶とさせていただきます。

皆さん、良いお年をお迎えください。そして、引き続き、ご指導の程、よろしく申し上げます。

湯河原町長 富田 幸宏

追伸

今回、次の選挙に立候補の意思を表明したことから、新年の年賀状でのご挨拶については、公職選挙法に抵触する可能性がありますので、控えさせていただきます。失礼をお許しいただきたく、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

2023年が皆様にとって素晴らしい年になりますことを

心よりお祈り申し上げます。

「来年は勝負の町長選挙の年！」



本年もいよいよ押し詰まってまいりました。後援会員の皆様におかれましては、ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は後援会活動に對しまして、深いご理解と温かいご支援を賜り、心から御礼申し上げます。

年が明けますと、4月には町長選挙が執行されます。富田町長が出馬表明したことは皆様もご存じのことと思います。5選を目指す訳ですが、多選批判は決して少なくはなく、かつ、現状に不満のある人は現職でない候補者に入れるという投票行動も一定数あることを考慮すると、選挙になれば非常に厳しい戦いになると予想されます。

富田町長には、行財政改革を手始めに、防災力の強化、観光立町の復活、地域医療の安定的提供、旧湯河原中学校跡地の福祉と防災の拠点化、新型コロナウイルス感染症・物価高及び原油高への対策や支援等を成し遂げてきた実行力、判断力があります。これまでの実績や経験、そこに、これからの湯河原を見据えた明確なビジョンを打ち出して選挙戦で訴えていけば万全とも考えられます。しかし、5選目となればそんなに甘いものではないと考えるべきです。では何が必要なのか。私は後援会員皆様方これまで以上のご支援、ご協力をいただけるかにかかっていると思います。皆様方のさらなるご支援こそが富田町長を押し上げるものと考えております。

私にとっては後援会長として初の選挙であり、故高橋義雄前後援会長の思いを継承し、絶対に負けられない戦いに臨む覚悟です。皆様方も「チーム富田」の一員として、ともに熱い思いを共有していただければ幸いです。

さて、今年も様々なことがあった1年でした。

暗いニュース・悲しいニュース
2月に起きたロシアのウクライナ侵襲

まさに驚天動地、今の時代にこのような戦争が勃発するとは。ロシアの暴挙はウクライナだけでなく、全世界に大きな負の影響を及ぼし、我々の生活を脅かす原油高や物価高の大きな要因になっていることは明白です。長期化しているこの戦争の一日も早い終結が望まれます。

安倍元首相が銃撃で死亡

まさかの出来事は、7月に日本でも。犯人の動機に関連する旧統一教会問題は今も大問題となっています。国葬儀も反対デモがあるなど、9月に亡くなったエリザベス英女王の荘厳な国葬とは好対照となつてしまっています。

個性豊かな政治家の死去

安倍元首相だけでなく、2月に作家で元都知事の石原慎太郎氏、10月に元プロレスラーで元参議院議員のアントニオ猪木氏と大物政治家が相次いで亡くなった年でもありました。

新型コロナウイルス感染症

一向に収束する気配はなく、また大きな波が来るのかもしれない。ただ、国はウィズコロナの経済活動、生活様式に舵を切り、当初より行動制限等は緩和されたため、我々も後援会主催の夏の「親睦会」、秋の「町長とのふれあいの集い」を3年ぶりに開催する判断に至りました。観光業・飲食業も旅行者や外食需要が増え、一時の底は脱したようです。



8/28 開催「親睦会」



10/23~11/26 「町長とのふれあいの集い」

コロナワクチン接種の重要性

テレビの情報番組では、海外研究機関のコロナ感染回数によるリスク比較のレポートが報じられていました。2回感染すると、1回だけの人に比べ、死亡リスクは2倍に、入院リスクは3倍に、後遺症リスクはそれ以上に、それぞれ大きくなるというものでした。やはり、感染しても大したことはない、という考えは捨て、なるべくワクチン接種はすべきなのだと感じました。

明るいニュース

北京冬季五輪

スピードスケートの高木美帆・カリーニング女子の活躍等で過去最多の18個のメダルを獲得しました。ただ私が一番心に残ったシーンは、明るい場面ではなく、スキージャンプ団体が失格となつた高梨沙羅のうずくまり涙する姿で、見ているこちらの胸が締め付けられるようでした。

アカデミー賞

濱口竜介監督の「ドライブ・マイ・カー」が国際長編映画賞を見事受賞しました。

米メジャーリーグ

大谷翔平が今年も大活躍！二刀流で2桁勝利・2桁本塁打、規定打球回・規定打席をクリアする歴史的な記録を残しました。

日本のプロ野球

ロッテの佐々木朗希が28年ぶりに完全試合達成、セ・リーグを連覇したヤクルトの主砲、村神様、村上宗隆が史上最年少で三冠王、王さんを抜く日本人最高の56本塁打を記録しました。

サッカーW杯カタール

日本代表が強豪ドイツ・スペインを撃破し、16強に進出したブラボな活躍に日本国中が歓喜と感動に包まれました。

私達は皆、何かしらの不安や困難を抱えながら生きていると思いますが、特にスポーツの国際大会などはしがらみなしに国中が日本代表を応援する、その時間だけは日常生活とは別次元の時間が流れるのだと、改めてスポーツの持つ力を実感しました。

さあ私達も、明年は卯年にふさわしく、ジャンプしようではありませんか。富田町長は町長5期目という大ジャンプを目指します。皆様方のより一層のご支援ご協力を賜りますよう、心からお願ひ申し上げますとともに、皆様のご健康、ご活躍を心から祈念申し上げます。

富田後援会長 五味康隆